

2011年度 ディアコニア 事業計画

I ディアコニアの事業経営

法人化されて9年目を迎え、10周年を目前に控え、①キリスト教精神を実現するよう、キリスト教精神の浸透に努力する。②そのために、職員の研修（特に中堅研修）を実施していきたい。③また地域に受け入れられる施設であるために、地域の人たちと具体的なことを通して、共に歩む。

II ディアコニアの経営事業

- ① 介護老人福祉施設 特別養護老人ホーム「ディアコニア」（定員80名）
- ② 短期入所・介護予防短期入所事業 ディアコニア・ショートステイ（定員8名）
- ③ 通所介護・介護予防通所介護事業 ディアコニアデイサービス（定員20名）
- ④ 訪問介護・介護予防訪問介護事業 ディアコニア・ホームヘルプ
- ⑤ 居宅介護支援事業 ディアコニア支援センター

III 施設サービスの事業活動計画

1. 共通方針 「よりよいサービスを提供するために」各部署の共通の方針

(1) 理念の浸透を図る

これまで新人に行ってきた理念研修を全職員に行う。特に中堅職員の研修を行う。設立理念を継承すべく、目標を意識化し日常の行動につなげられるよう努力する。そうすることが生き生きとした仕事につながる。

(2) 第三者評価事項、事案から学ぶ

常に日頃の業務を振り返り、自らが気づき、改善していく努力を重ねる。そのために第三者の評価を真摯に受け止め、自己研鑽に努める。

(3) 苦情対応を丁寧に行う

「苦情から学ぶ」をモットーにする。苦情は改善のための示唆を与えられたと受け止めることが大切である。聞き流さない、個人の問題で終わらせることなく、改善報告まで行って終結とする。

(4) リスクマネジメント 意識の問題である。職員間で意識を高める。

(5) ターミナルケア

増える終末期の諸問題はまさにチームで関わっていく必要がある。そのためにも夫々の専門知識を深める努力が求められる。

(6) 委員会活動の充実

夫々の委員会において昨年度の反省を踏まえたうえで、年間の目標を定め、途中で評価をしたうえで、次年度に繋ぐ。具体的な事例を取り上げて検討する（現場

に密着した活動を行う)。

(7) チームケアの構築

個々人が勝手に動くのではなく、チームの一員としての自覚を持ち。お互いの役割を尊重しあっていく。横のつながりを綿密に持つことが必要である。個人プレーをしない。

(8) 会議のあり方を見直す。

会議の目的を明確にし、決まったことは守る。お互いに意見を出し、妥協点を見出す。招集メンバーがその場で思ったことを発言できるよう努力する。事前に検討課題を挙げ、的を絞った話し合いにする。黙っていることは容認したと同じことである。

在宅サービスの事業活動計画

(1) 居宅介護支援事業

- ・ターミナルを自宅で迎えたいという事例が増えてきている。医学知識を更に身につける必要がある
- ・ケアマネの実力アップ

(2) デイサービス

- ・明るく元気なデイサービスを目指していく
- ・稼働率90パーセント以上の保持
- ・個別ケアへの取り組みのためケアカンファを充実させる
- ・職員が夫々自分の考えを述べ合える場作り

(3) 訪問介護

- ・在宅でターミナル迎える利用者様が増えている現状で、ホームヘルプも必然的にサービス内容に変化が現れてきている。それに添った対応を実施する
- ・訪問件数の増加に努める
- ・積極的に研修に参加し、ヘルパーとしての実力アップに努める

施設サービスの事業活動計画

特養「ディアコニア」(ショートステイを含む)

(1) 運営方針

利用者のニーズを捉え、「一人一人を大切に」という基本理念に照らし合わせ、QOLを高めるための具体的支援を行う。特に増え続けている認知症への理解を深める。

(2) 課題と対応

- ・「一人一人を大切に」の目標を達成するために、チームで取り組んでいく
- ・認知症の知識を持つ

- ・介護技術のレベルアップ
- ・目標管理（個々の実力に合わせた目標）」
- ・報告の徹底（誰に報告すべきか？）
- ・会議の在り方を再検討（チェック、評価）
- ・個人の判断で行動しない
- ・業務分担を確認
- ・各部署の専門性を生かす
- ・施設サービス計画書の充実
- ・定期的カンファレンスの実施
- ・ターミナルケアの充実
- ・なめらか食・ソフト食を吟味していく

防災への取組み

今回の東日本大震災をうけ、大切な命を預かる重い責任を痛感させられた。現状を洗い出し、今できることは何か、改善すべきことは何かを整理する。

1. 防災訓練の見直し。職員に対しての意識付け（危機感を持って臨む）。
2. 備蓄品のチェック（保存食、おむつ、医療品、その他）
3. マニュアル作り。
4. 地域の中での役割を果たす。
 - ・有事の際には避難場所として活用してもらう
 - ・防災訓練に、地域住民にも参加してもらう
 - ・地域の防災訓練に参加する

以上